

## 2017年度 シラバス情報表示画面

科目コード : 40314 単位数 : 4

科目名	ミクロ経済学	科目責任者	齋藤 之美
課題と試験担当教員			
履修方法	S スクーリング学習		
ナンバリング	CECON111		

## ■ 科目概要

経済学の理論には、ミクロ経済学とマクロ経済学の2つがあります。この授業では、ミクロ経済学を学びます。ミクロ経済学は、私たちの暮らしている社会において、(1)何をどれだけ生産し、(2)生産された生産物を誰にどれだけ分配するか、といった問題が、どのように解決されているのかを考察する学問です。旧ソ連のような計画経済においては、これらの課題を解決するために、政府が膨大な情報を集め、解決方法を決定し実行するという制度を採用していました。しかし、私たちの暮らす社会においては、政府の役割は限定的で、個人の自由な取引が前提となっています。では、私たちの社会では、どのように(1)や(2)の問題を解決しているのでしょうか。実は、自由で自発的な意思を持つ個人が集まる「市場」において、(1)や(2)の問題が解決されています。では、具体的にどのようにしてこれらの問題を解決しているのか、その方法は望ましいものといえるのか、一緒に考察していきましょう。

## ■ 到達目標

まず、経済問題を分析、考察するために、需要曲線や供給曲線といった分析道具を身につけましょう。次に、これらの道具を使って具体的な経済問題を分析できるように使いこなしていきましょう。たとえば税金を上げるといった政策が、私たちの暮らしにどのような影響を与えるのかを考える際、需要曲線や供給曲線を使って分析できるようになりましょう。

## ■ 科目の計画・内容

学習範囲 該当する章など	学習内容
第1章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経済循環図</li> <li>・ ミクロ経済学で何を学ぶか</li> <li>・ ミクロ経済学の考え方</li> <li>・ 限界の概念</li> <li>・ 機会費用</li> <li>・ 問題解説</li> <li>・ メディア授業で学ぶことの確認</li> </ul>
第2章 ただし、2.5.3消費者余剰を除く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別の需要曲線を描く</li> <li>・ 市場の需要曲線を描く</li> <li>・ 需要量に影響を及ぼす要因</li> <li>・ 需要曲線のシフト</li> <li>・ 問題解説</li> </ul>
第4章 ただし、4.3の生産者余剰を除く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別の供給曲線を描く</li> <li>・ 市場の供給曲線を描く</li> <li>・ 供給量に影響を及ぼす要因</li> <li>・ 供給曲線のシフト</li> <li>・ 問題解説</li> </ul>
第5章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 弾力性とは</li> <li>・ 需要の価格弾力性</li> <li>・ 弾力的な需要曲線と非弾力的な需要曲線</li> <li>・ 弾力性と売上げの関係</li> <li>・ 弾力性を左右する要因</li> <li>・ 需要の所得弾力性</li> </ul>

学習範囲 該当する章など	学習内容
第5章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 需要の所得弾力性の続き</li> <li>・ 需要の交差価格弾力性</li> <li>・ 供給の価格弾力性</li> <li>・ 価格差別と弾力性</li> <li>・ 面接授業までに準備すること</li> </ul>
第1回から5回のまとめ(1)	経済循環図、需要曲線と供給曲線 弾力性
第1回から5回のまとめ(2)	経済循環図、需要曲線と供給曲線 弾力性
第2章 2.5.3 第4章 4.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 需要曲線の解釈</li> <li>・ 消費者余剰とは</li> <li>・ 消費者余剰を求めよう</li> <li>・ 供給曲線の解釈</li> <li>・ 生産者余剰とは</li> <li>・ 生産者余剰を求めよう</li> </ul>
第6章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 完全競争市場の特徴</li> <li>・ 需要曲線と供給曲線から市場均衡を求める</li> <li>・ 需要曲線や供給曲線のシフトによって均衡点が移動すること</li> <li>・ 新しい均衡点における価格や取引量の変更</li> </ul>
第6章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市場の均衡のもとでの社会的余剰を考える</li> <li>・ 過少生産 あるいは過大生産のときの社会的余剰を考える</li> <li>・ 資源配分が効率的な消費・生産量を考える</li> <li>・ 死荷重の発生</li> </ul>
第6章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市場の効率性について考える</li> <li>・ 市場の失敗とは何か</li> <li>・ 市場の失敗の例</li> </ul>
第3章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 需要曲線がどのように導出されるかを考える</li> <li>・ 消費者の行動について考える</li> <li>・ 予算制約線を学ぶ</li> </ul>
第3章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無差別曲線とは何か</li> <li>・ 無差別曲線の性質</li> </ul>
第3章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最適消費点を求める</li> <li>・ 最適消費点の条件</li> <li>・ 予算の変化の分析</li> <li>・ 価格変化の分析</li> <li>・ レポート課題の説明</li> </ul>
第7章 1節と2節	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 価格が上がるのに需要が増える</li> <li>・ 豊作貧乏の謎</li> </ul>
第7章 3節と4節	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貸し渋り論争</li> <li>・ 価格が付くモノ、付かないモノ</li> </ul>
第8章 1節と2節	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ダフ屋について</li> <li>・ 租税負担の意味</li> </ul>
第8章2節	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 弾力性と租税負担の関係</li> <li>・ 実際の税金への応用</li> </ul>
第8章3節	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 需要と供給曲線による分析の限界</li> <li>・ 部分均衡と一般均衡</li> </ul>
第9章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外部効果と環境問題</li> <li>・ 私的限界費用と社会的限界費用</li> <li>・ 外部効果の存在時の社会的余剰</li> </ul>
第9章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外部効果の解決方法</li> <li>・ 税と補助金</li> <li>・ 外部費用の推計</li> </ul>
第9章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私的財と公共財</li> <li>・ 公共財は市場に任せると仮称供給になる</li> </ul>

学習範囲 該当する章など	学習内容
第9章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共財の実際</li> <li>・非排除性と非競合性</li> </ul>
第10章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の非対称性</li> <li>・逆選択問題：レモンとチェリー</li> </ul>
第10章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モラルハザード</li> <li>・問題を解決する方法               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 保険制度の工夫</li> <li>(2) 認定と保証の制度</li> <li>(3) 学歴</li> </ul> </li> </ul>
第11章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非完全競争市場について</li> <li>・独占</li> <li>・独占市場の供給</li> </ul>
第11章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独占の弊害</li> <li>・社会的余剰の変化</li> <li>・過少生産</li> <li>・どうして独占企業が登場するのか</li> <li>・独占への歯止め</li> </ul>
第12章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不確実性とリスク</li> <li>・不確実性下での判断基準</li> <li>・意思決定とゲーム</li> <li>・不確実性と期待効用</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業でまなんだことのまとめ</li> </ul>

## ■ ディスカッション・ペアワーク

ディスカッション・ペアワークを行う場合があります。

## ■ DVDに関する内容理解の確認方法

面接授業1回目に小テストがあります。

## ■ 学習方法・評価

種別	評価基準
試験	メディア授業と面接授業で学習した内容について、筆記試験をおこないます。基本的な事柄を確実に理解していることが大切です。
レポート	<p>第1課題 消費者行動について理論的な分析を行えることが大切です。1) 予算制約線や無差別曲線の性質を理解している、2) それらを図に描ける、3) 最適な消費点はどこになるかを理解している、4) 最適消費点の条件を経済学の用語を用いて的確に表現できる、5) 最適消費点の変化から需要曲線を導き出すことができる。これらのことを答案に示してください。ここまでは基本的な問題ですので、ほぼ完璧な答案を期待していません。所得効果と代替効果は少し難しいかもしれませんが、是非知っておいていただきたい内容でもあります。余裕のある方は自習し、答案を作成してみてください。</p> <p>第2課題 需要曲線や供給曲線の式から、需要曲線や供給曲線を描きます。課題の表を完成させれば、数学が不得意でもグラフを描くことができるでしょう。作成した表から、需要曲線、私の限界費用曲線、限界外部費用を加えた社会的限界費用曲線を描きます。教科書第9章図9-2に似た図が描ければ、よいでしょう。さらに、余剰分析を行って、最適な生産量を求めます。環境問題を経済学的に考察する第一歩となるはずですよ。</p>

## ■ 評価方法

- スクーリング試験：70%
- レポート：30%

## ■教科書

---

**書名：**基礎からわかるミクロ経済学第2版  
**著者名：**家森信善・小川光共  
**出版社名：**中央経済社  
**出版年：**  
**版：**  
**刷：**  
**ISBN：**

## ■参考書

---

- ・著者名：N・グレゴリー・マンキュー
- ・書名：マンキュー経済学 I ミクロ編
- ・出版社：東洋経済新報社
- ・出版年および版：2013年 3版

## ■履修上のアドバイス

---

勉強し始めて間もない頃には、経済学の理論は「難しい」と誰もが感じるようです。これまであまり馴染みのなかった考え方や概念が出てくるからでしょう。ただ、講義を聞いたり教科書を自習したりして努力を重ねるうちに理解が深まり、「おもしろい」と感じる学生さんも少なくありません。諦めず地道な努力を続けてください。

## ■自習時間

---

<スクーリング学習の場合>

スクーリング前にDVDで自習してください。まず、教科書をしっかり読んでからDVDを聞いてください。1.5時間の講義の前後に最低1時間ずつの予習を復習を行ってください。

<レポート作成の場合>

レポート1課題あたりの作成に20時間学習してください。

## ■担当者のプロフィール

---

1983年 創価大学経済学部卒業

1991年 アメリカ合衆国アイオワ州立大学博士課程Ph.D.取得（経済学）

1992年4月より創価大学経済学部勤務

現在、創価大学経済学部教授

ミクロ経済学、国際経済論などを担当

趣味は読書やガーデニング

現在、バラの美しさに魅了され、鉢植えのバラの手入れをすることが楽しみです。将来は登山も楽しみたいと思っています。